

お客様訪問

「蜂っ子が繋ぐ健康の輪」



「銀行マンの掟」や「崩壊メインバンク」「挑戦」など、150冊以上の著書をもつベストセラー作家であり、テレビや経済誌などで経済評論家としても活躍している荒和雄先生には、2002年から「蜂っ子」をご愛飲頂いています。

今回のお客様訪問は、荒先生から特別に寄稿して頂きました「ハワイアンクルーズの想い出」を、ご紹介いたします。

特別企画

私の健康と元気の素「蜂っ子」を飲んでハワイアンクルーズ

「船上での出会いの中で日米交流」

経済評論家・作家 荒 和 雄

三月三日から十一日迄九日間初めてハワイアンクルーズに参加した。ハワイにはこれまで七回程観光に出掛けているが今回は豪華客船「プライド・オブ・アメリカ」に乗船しての初めての旅立ちであった。年末から年始、そして二月末まで、百五十二冊目に

当たる著作「銀行もうかつてます」(集英社新書九月十四日刊行予定)を執筆。旅立ち二日前に担当者に原稿を手渡した後のあわただしい出発であった。

今回ハワイアンクルーズへの旅を思い立ったのは、

・元気なうちに夫婦でゆつたりとした海外旅行を楽しみたい。

・船上での連泊で移動の時間が省け、その分ゆつたりと旅が出来る

・新たな船上の出会い

・そして日頃講演などに家を空ける機会が多い日々の妻への感謝の気持等からであった。

出発までのスケジュールは全く妻に委せっぱなし。私にとっては、久しぶりのリラクセスしたビジネス抜きの旅であった。

クルージングのスケジュールは、 Honolulu(オアフ島)を夜八時に出航、ヒロハ(ハワイ島)、カフルイ(マウイ島)連泊、コナ(ハワイ島)、メウイリウイリ(カウアイ島)、ホノルル(オアフ島)であった。



今回は「プライド・オブ・アメリカ」に乗船しての、妻と二人ゆりの旅であった



船上のプールからはハワイの島々を眺めながら泳ぐことが出来る

乗船したプライド・オブ・アメリカは二〇〇五年七月就航、全長二一八メートル、乗組員数八〇〇名、乗客定員二四四人、総トン数八二〇〇トンの文字通りの豪華客船であった。船内にはレストラン八ヶ所、ラウンジアンドバー十ヶ所、三つのプールや劇場、映画館、図書館、ジム、スパなどの施設を整えた洋上の旅と思わぬ機能が整っていた。

しかし、船旅の醍醐味は、こうした施設を各人思い思いに自由に楽しむゆとりある時間をついやす他に思わぬ人に人と人との出会いにある。

船上での生活によくやく慣れ始めた四日目に船長歓迎の記念写真撮影会があり、船長に日本から持参した、私の健康と元気の素である「蜂つ子」と、私の百五十冊目の著作「挑戦」をプレゼントした。

「ゲットヘルシイ」と「蜂つ子」の素晴らしさを英語で説明する私に対して、船長はサイン入りの著作共々このプレゼントを快く受け入れてくれた。

「蜂つ子」を毎日二つずつ飲んで五年近く、私が七十歳の古稀を迎えた今日、全国各地の講演活動に出掛

クルージングの楽しみは、毎日各部屋に配られる日本語新聞によつて、その日や翌日の観光を主体としたオプショナルツアーや各種のイベントの案内が行われることだ。

観光をしたければ、下船してもよし、多少疲れていれば、船上でのプールで島々を眺めながら泳ぐのも良い。また、旅の疲れをとるためスパに入っ

け、また執筆活動を続けられるのも、健康あつての人生と改めて感謝。船長と固く握手をし、今後の活躍と健康とをお互いに語り合った。



「プライド・オブ・アメリカ」の船長と記念撮影。自著と共に、私の健康と元気の素「蜂つ子」をプレゼントした

て体をほぐすのもよい。すべて自分の意志で、体調に合わせて行動出来るのが、長いクルージングの楽しみの仕方だ。

また、店内での買い物や会食などには、船内通貨と思える一枚のカードを乗船時にクレジットカードやパスポートを提出して作成。乗船中は、すべてこのカード一枚で事足りるという便利さがある。



船内のレストラン。素敵な時間と共に、2人でゆっくりと食事を楽しんだ



「日本の方ですか？少し日本語で話をしたいのですが。」

五日目の夜、レストランから日本人の観光客共々ほろ酔い気分が出てきたところを突然若い美しい女性に声を掛けられた。

「ええ、どうぞ。」

彼女が英語と日本語を交えながら話した内容は次の通りであった。

交換留学生制度で、大坂のある大学で国際経済学を勉強中。週二回は近くで幼稚園児などに日本語を教えていると云う。わずか四、五分の会話で意気投合した二人は、再会を約し、私は持参のアジアの経済の統



突然、船内で声をかけられた女性とは、家族ぐるみのお付き合いとなった

合、アジアの共通通貨「アジア版ユーロ通貨」創設を内容とした経済小説をプレゼントとして手渡した。

このプレゼントに応じるかのように翌日メインレストランに夫妻共々招待された。聞けば三人姉妹と両親の年々二回の家族の集いにこの客船でのいこいを求めて来たと言う。両親は米国の政府関係の高官。気持ちよく娘への本などのプレゼントに報いようと招待をしてくれたのだ。

話は日米経済談義から始まりハリウッドの映画、孫の話までにわたった。またお互い健康に気を遣う年齢であることから、私の健康と元気の



自著「挑戦」と「蜂っ子」を抱えて、船内にて記念撮影



サービス精神旺盛な船上スタッフに、妻も大満足の様子であった



オアフ島では旧知の友人であり、現地でイタリアンレストランを経営している丸子さんご夫妻と楽しいひと時を過ごした



帰宅後は可愛い孫たちが待っていてくれた。ハワイからのお土産と共に

源である「蜂っ子」を紹介し、たいへん興味を持っていただいた。こうした話題を肴にして、赤と白のワインのボトルを二つあけるまで心地よく最後の夜を共に楽しめた。

「出会いこそ人生のすべて」とは思いつつも、その出会いには、個々のパーソナリティと積極性が大事なことを痛感した。

クルージングそのものもゆったりとした旅が出来て楽しかったものの、船上でのゆたかな時間の中の出会い。これこそが至福のひとつをえたと

思える。この若い日本への留学生が未だ東京や横浜を訪れたことがないという事を聞き、両親や姉妹の前で食事の招待のお礼にわが家への招待を申し入れた。両親も彼女達も大喜びである。船上での出会いの続きは、まだこれからも続く。これも船旅ならではの楽しみであると共に、「蜂っ子」に支えられての健康で旅行できることの幸せと身にしみた。

今回のハワイアンクルーズの旅は文字通り私の人生のキーワードである「感謝・感動・感性(出会いへの積極性の魅力)」の旅であった。

プロフィール

荒 和雄 (経済・経営評論家)

昭和34年早稲田大学第一法学部卒業。同年東京都民銀行入行。

武蔵小山、浅草、茅場町、日本橋の各支店長を経たのち、平成元年7月に独立してブレン・サービスを設立する。中小企業診断士 昭和51年度優秀診断士賞受賞。荒 和雄の「経営塾」を全国各地で開催するほか、金融機関、証券会社、生命保険会社、中小企業大学校、各地の商工会議所や法人会など中小企業指導団体の講師をつとめる。また、テレビのコメンテーターとしても活躍中。

著作は150冊を超え、「金融経済」「銀行取引」「リーダーシップ」「後継者問題」「サラリーマン」まで多岐分野にわたる。一部は台湾、韓国で翻訳されている。